

上条

報告

第5号

平成21年10月

甲州市教育委員会
☎32-1411

伝建地区の視察研修会 開催について

すでにご承知のことと思いますが、かねてより話題だった伝建地区の視察研修会について、十月十七日（土）に開催することとなりました。研修地は、長野県塩尻市に所在する重要伝統的建造物群保存地区2ヶ所です。

今号は、視察研修会開催にあたり、塩尻市内の伝建地区「木曾平沢」「奈良井」の特集としました。

「奈良井」は、国内でも最も古い伝建地区のひとつで、整備もされており、訪れたことがある方も多くと思います。また、「木曾平沢」は奈良井の北隣に位置し、奈良井の枝郷として発生したものの、奈良井が宿場町であるのに対し、木曾平沢は伝統工芸の漆工町として発展してきました。

ご一読いただき、当日の参考となれば幸いです。

《木曾平沢》

木曾平沢は、中山道や奈良井川が南北に縦断する市域南部の中央に位置し、谷あいを北流する奈良井川が大きく湾曲した河川敷に発達した集落です。

慶長三年（一五九八）に奈良井川の左岸にあった道が右岸に付け替えられたことを契機に、周辺の山

林付近に生活していた人々がその道沿いに居住することで、集落が形成されていったと考えられています。この道は、徳川幕府により慶長七年に中山道の一部として整備されたものです。

このように成立した平沢は、近世には奈良井宿の枝郷として位置付けられ、檜物細工や漆器などの生産で生計を立ててきました。当初は「木曾物」と総称されていた漆器も、近世後期になると「平沢塗物」の名で流通するようになりました。

保存地区は、東西約二〇〇m、南北約八五〇m、面積十二・五畝の範囲で、地区のほぼ中央に本通りと称される中山道が南北に縦断し、その西側に並行して金西町の街路があります。それぞれの通りの両側に、近世後期に遡る奥行き深い短冊状の敷地割が残されています。この本通りと金西町の街路に沿って形成された町並みは、それぞれに異なった景観をみせており、本通りは道の両側で漆器の店舗をもつ主屋が多くみられるのに対して、近世になって開削された金西町の街路は、店舗をもたない主屋、つまり職人町といった景観を呈しています。

木曾平沢は、店舗の本通りと職人町としての金西町の街路が一体となり、漆器生産から販売までを行う漆工町と呼ぶにふさわしい景観を有します。

《奈良井》

奈良井は、戦国時代に武田氏の定めた宿駅となっており、集落の成立はさらに古いと考えられます。

慶長七年（一六〇二）、江戸幕府によって伝馬制度が設けられて中山道六十七宿が定められ、奈良井宿も

その宿場の一つとなりました。

選定地区は中山道沿いに南北約1km、東西約二〇〇mの範囲で、南北両端に神社があり、町並みの背後の山すそに五つの寺院が配され、街道に沿って南側から上町・中町・下町の三町に分かれ、中町に本陣・脇本陣・問屋などが置かれていました。

奈良井宿は、中山道最大の難所といわれた鳥居峠をひかえ、峠越えにそなえて宿をとる旅人が多く、「奈良井千軒」と呼ばれるほどの賑わいをみせました。現在も宿場当時の姿をよく残した建物が、街道の両側に建ち並んでいます。

建物の大部分は中二階建てで、低い二階の前面を張り出して縁とし、勾配の緩い屋根をかけて深い軒を出しています。屋根は石置屋根でしたが、今日はほとんど鉄板葺です。二階正面に袖壁をもつものもあり、変化のある町並みを構成しています。



木曾平沢と奈良井の位置関係

JR中央本線で一駅の距離にあります。また、市内には塩尻・洗馬・本山・贄川・奈良井の5宿が集まっています。



木曾平沢 (漆工町)

地区決定 ①面積 12.5ha ②決定告示日 2005年12月1日
 物件数 a 建築物 200棟 b 工作物 20件
 c 環境物件 16件



奈良井 (宿場町)

地区決定 ①面積 17.6ha ②決定告示日 1978年2月24日
 物件数 a 建築物 160棟 b 工作物 7件
 c 環境物件 1件

